

## 枯れ葉剤被害者支援/日越国交 45 周年記念

枯れ葉剤被害を歴史に刻み“忘却”しないための

# ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート 2018 による支援活動のご報告

この度は、ベトナム戦争枯れ葉剤被害者支援のための「ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート2018」(企画:IFCC 国際友好文化センター、共同企画:JVPP 日本ベトナム平和友好連絡会議)に御協力頂きありがとうございました。

アンサンブルメンバー(国立ボンセン歌舞団選抜グループ)は、10月15日に来日し、9箇所で開催されたチャリティーコンサート、1箇所で開催された日越友情演奏会、1箇所で開催された友好活動(埼玉・東松山市小学校で民族楽器紹介・演奏)を行い10月31日に離日致しました。来場者は約2,900人、チケット購入協賛者は4,000人ほどとなりました。

公演回数は少ないでしたが夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。



コンサート基金1千万円拠出で2004年開所したタイビン・リハビリ施設は老朽化が激しかった。(1/14)



タイビンリハビリ施設で、持参したテトの土産を手にする入所者たち。(1/14)

今回は枯れ葉剤被害者支援とともに日本ベトナム外交関係樹立45周年記念事業としても位置付け、長崎公演、福岡公演には在福岡ベトナム総領事館のグエン・フォン・ホン総領事からご挨拶をいただきました。特に長崎実行委員からは別途義捐金30万円を、ホン総領事を通じて頂きました。

また、福岡公演では枯れ葉剤被害障害者で画家のLE MINH CHAUさん(両足、両手が使えず筆を口に咥えて描く)との舞台上でのコラボが実現しました。他、大阪での日越友情演奏会では日本人の隻腕のギタリストの橋本道範さんとフォルクロレグループ ESPERE UN POCO の皆さんとの共演、埼玉・東松山公演ではオペラ歌手・角田和宏さんのゲスト出演など実現しました。

今回は23年目となりこれまで累積104会場で来場者数は約183,000人を数えることになりました。

2018年度の収支バランスは移動空白日が多く良くありませんでしたが2018年度支援金は年明けの1月に実施しました訪問団が北部のハザン省(家庭2軒)、タイビン省(リハビリ施設)、ナンディン省(家庭2軒)、南部のカンホア省(家庭2軒)で調査・慰問を実施し支援金を贈呈してきました。

慰問・調査活動は「わたしの体の中では戦争が終わっていない」という枯れ葉剤爆弾被害者の叫びを受け止め、忘却しないよう記録し、そして歴史に刻んでいく活動です。

これまでの23年間に渡る枯れ葉剤被害者支援活動でハザン省、ヴィンフック省、ハノイ市、バクニン省、タイビン省、ナンディン省、クアンチ省、ダナン市、クアンナム省、ダクラク省、タイニン省、ラムドン省、カンホア省、ホーチミン市、ピンフオック省、ドンナイ省、カントー市、ベンチェ省(北部から18行政区)を訪ねてきました。

小さな活動ですが、「灯し続けて」いきたいと思います。(記:鎌田)

### 2018公演収支報告(2018/10/14~10/31)

【支出】	
◆ <b>招聘経費</b>	993,435
国際航空運賃、出国 TAX、査証代、招聘手続き費 11人	
◆ <b>移動費</b>	1,429,768
バス代、国内移動費等 19日間	
◆ <b>滞在費</b>	1,438,120
宿泊費、食費、他 17日間	
◆ <b>事務局費</b>	1,296,725
人件費、添乗費、出張旅費、通信・送料、事務費等	
◆ <b>宣伝物作製費</b>	248,180
◆ <b>保険料</b>	30,000
◆ <b>物資販売仕入れ(2018年分)</b>	159,190
◆ <b>公演謝礼支払(10回)</b>	9,062,000
アンサンブル団員、通訳、製作経費	
◆ <b>支援事業推進経費</b>	437,480
18 推進管理費(437,480円)、次期準備費(0円)	
◆ <b>支援金</b>	516,858
18 支援金(428,500円)、次期プール金(88,358円)	
◆ <b>特別支出</b>	150,000
著作権料	
<b>計</b>	<b>7,661,756</b>
【収入】	
◆ <b>繰越</b>	531,880
前期支援プール金	
◆ <b>公演謝礼入金(10公演)</b>	5,429,267
◆ <b>協賛広告費</b>	330,000
全労済、労金、山下事務所、連合会館、藤印刷、アイエフシー	
◆ <b>物資頒布</b>	613,000
◆ <b>寄付</b>	667,609
会場カンパ、義援金 30万円(長崎公演美委)	
◆ <b>自己資金</b>	0
IFCC 自己資金	
◆ <b>雑収入</b>	90,000
村山学校より	
<b>計</b>	<b>7,661,756</b>
<b>収支</b>	<b>0</b>
18 枯れ葉剤被害者支援事業基金	954,338
うち 18 支援事業費	865,980
次期事業費及び繰越金	88,358

# 2018年度の慰問・調査活動から（写真で見る）

JVPF 訪問団は2019年1月13日ハザン省、14日タイビン省、ナンディン省で、鹿児島JVPP訪問団が1月26日カンホア省で調査・慰問と支援活動を実施しました。（詳細はJVPP会報『ホアビンレポート』47号に掲載予定（2019年7月））



①



②



③

①ハザン市ミンハイ区  
元兵士67歳（男）。クアンチなどで従軍。1981年頃から発症し動けなくなる。精神異常。妻は離別、子供は一人が死亡。もう一人も病弱。本人の妹が世話をしている。写真右は訪問団員に泣き崩れる妹  
②ハザン市ゴックドン村  
1983年生まれ二世（女）。父親死亡。クアンチで従軍。本人は5人兄弟の末っ子で盲目。盲目の主人と家庭を持ち子供に恵まれる。歌がうまいとお土産寄付の後に歌ってくれた。（写真②下）



II



II

③ナンディン市チュオンチ区トウヒエン通り。  
1977年生（男）、二世。精神異常で狂暴化するため、ベッドでは足枷のチエーンがあった。姉は健常で世話をしている。妹も精神薄弱のようだった。（写真③下）  
④ナンディン省ナンチュック郡ニアアン村  
1953年生まれ父親はクアンチで従軍。復員後寝たきりで2012年死亡。長男3歳で発症し動けない寝たきり。（右端）妹二人も精神薄弱で動けるが食事も作れない。（中二人）自分が病気になるから子供らは食事もできないと悲嘆にくれる61歳の母親（左端）



④



⑤カンホア省ニヤチャン市フオックロン区。  
36歳（女）と25歳（女）の二世の姉妹。足腰が不自由で歩けない。長男は5歳で死亡。父親は逃亡し母親が世話をしている。救いは二人とも聡明で母親が教えた文字でスマホも操作できると言う。  
⑥カンホア省ニヤチャン市フオックロン区。  
40歳（女）、二世。生まれてから精神薄弱。3年前から寝たきりで話せない。両親死亡で兄が世話をしている。  
※ニヤチャンは南部にあり正規軍の戦場ではなかったが多くの人民が民間防衛隊として山野で活動していた



⑤

好評頒布中 枯れ葉剤被害者追跡記録 DVD 第3版『トアとトゥオン』が第58回科学技術映像祭 部門優秀賞（自然・暮らし部門）を受賞しました。鑑賞、頒布にご協力下さい。約50分 頒価¥4000（税込、送料込）●関係者には¥3000の特別頒布を行っております。